

# パンタール通信

南北米福地開発協会

会報

2009年3月1日

66号



南北米福地開発協会新年会開催(2月15日)

歌を披露する桜井副会長夫妻

## レダ開発二〇〇九年

バイオディーゼル製造のためジャトロファの栽培の

継続的な研究(特に鳥害対策と搾油)

地球に酸素を供給するためのニームの木の植林

(レダならびにインディヒナ居留地での森林の再生)

地球飢餓問題対策の一環としてのモリンガ植樹とモ

リンガの製品作りと販売網の形成(アメリカを中心に)

食糧自立のための農業政策

牧畜の事業化

自然保護林の登録とエコツーリズムの準備

スペインの

ZOと協力し貧

困対策プロジェ

クトの実施と国

際協力青年奉仕

隊派遣

レダにおける

教育、研修(パ

ラグアイと南米)

日本での活動

(啓蒙活動、緑

の会との連携)



モリンガとニームの製品化のため尽力を尽くすアメリカ在住の清野社長と柴沼事務局長

会員の親睦会を兼ね、今年は全体集会とともに新年会を二月十五日に持ちました。午前中は桜井先生の講話、昼食後、ビンゴゲームならびにカラオケ大会を行いました。

今年度は左記の件を強化する事を確認する。

南北米福地開発協会の会員化

南米植林活動の勧め

セミナーを通しての教育の充実

国際協力青年ボランティア隊支援

レダ開発のための情報収集





2009.2.11 文と写真：飯野貞夫



木々は倒れそうになるかと思うほどに揺れに揺れ、道路は砂塵を上げて激しく突風が駆け抜け、たちまち空は暗雲が押し寄せ、稲光が走り、雷鳴が交響曲「運命」のように轟き、土砂降り雨が降り出しました。かと思うと秋雨のようにシトシトと囁くような雨が降りました。雨季にしては余り降らなかった一月でしたが、二月六日（金）から十（火）まで四日にわたって降ったり止んだりしながら、結局九十二mmの雨量でした。今回は雨で起こった三つの出来事を報告します。

### 、トウユウの群来る！

第三、四の橋が完成してから本格的雨が初めて降り、又エボにつながらる支流から勢いよく橋の下を水流がぐり抜けて行きます。運河方式が功を奏して、凄まじい水圧が分散され、橋は泰然としているようです。その水に小魚が沢山押し流されて、橋の下流の大湿地帯草原へと運ばれて行きます。それをトウユウの群が待ち構え、そうめん流しのように小魚をついばんで行きます。水と餌の有るところに動物はやつてくるのがよく分かります。こうして数百羽が群ながら互いの相手を探し合い、やがて夫婦となって繁殖をして行くのです。



## 、プール大清掃！

この一か月ほどプールの水が濁りはじめ、中田所長、小田先生も真剣に取り組んで浄化装置システムの点検や、水を浄化する様々な努力をして来ましたが、薄緑色のお茶のような色が濃さを増してきて、いつものあの美しい透明な水に戻りません。雨季に雨が少なかったためか、野焼きが頻繁に北でも東でも南でも近隣で成され、沢山灰が降って来ていたことも影響があるのかわかりませんが、自然環境と観光に力を入れようとされているルゴ大統領が近々来園されるかもしれないという情報があるような時期ですから、今回の雨上がりを機に、数年ぶりに六〇〇トンの水の総入れ替えを決断しました。

全ての水を抜き、プールの壁や底をデッキブラシで洗いまくり、大量の水作り作業を成すには、二週間以上かかるのを二週間以内で仕上げてしまおう計画で、担当の小田・綿貫先生に三石先生も助っ人として加わり、労働者と共に汗を流しました。



右端から綿貫、労働者、三石、小田、  
以下労働者の各氏！

## 、トウモロコシの芽が一齐に出た！

大山先生たちによって第四農園のジャトロファの間に二列の畝を作り、2/3に三十cm置きに撒かれたトウモロコシの種がこの四日間の雨の間に発芽し、一齐に美しい姿を顕しました。七十三mの畝が八列作られていました。この種はまだ一世です。農業担当してきた中田所長も、今まで沢山のトウモロコシ作りをこのレダで経験していますが、二世、三世の種を使う研究を進めていて、世代が進むごとにこの地にあった逞しい豊かに収穫できるトウモロコシを目指しています。



## すだれ完成！

食堂の入口脇、窓からの西日が強く、食器をとったり、食事をとったりする時にそれを殊の外強く感じ、何とかしたいな、と反省会で話題になった時、昔子供のころ、炭俵を編んだことがあるので、作りましようか」と大滝さんが言われ、炎天下植樹園での作業が心臓にきつい時に、代わりにこの作業なら体調を整えながらやれるということも合わさず、ゴーサインが出ました。食堂から海軍警備所の間にある池の周りに沢山の黄色い花が咲く葎のような水草が二m位に伸びて群生していました。その一部を二日掛かりで刈り取り、その茎を百四十cmほどの長さに切って揃え、何日間か天日干しをしてます材料を作りました。一方、労働者カルロに手伝ってもらって、思い出しながら、二日掛かりで昔ながらの「すだれ編機」を材木で造り、編む糸をアスロンから取り寄せ、準備完了、二日半かって百四十(横)×百五十(縦)cmのすだれを二枚見事に編みあげました。





## 会社報告（柴沼記）

### レダで植えているニームの製品化研究のため

二月五日の朝、久留米にてニームを使って石鹼を製造している『まるは油脂化学株式会社』を訪問しました。一切化学合成したものは使わず、自然の石鹼を作って七〇年の歴史を持つ会社で、小さな企業ですが自社製品とともに四〇社から依頼を受けて製品を製造しているとのことでした。

ニームを入れた石鹼は４年ほど前から大分の方からの依頼で作り始め、原料の葉はベトナムからのものとのことでした。製造過程において原料によって製造の仕方が微妙に異なり、石鹼の適度の固さ、滑らかさを引き出す技術は会社の公にできない特許的なものと詳細には話をしてくれませんでした。石鹼を製造するのであればミニチュアの窯と攪散するモーターなどは販売しているとのことでした。

六日にはレダにてバイオジョーゼル製造のため、ジャトロファを植え採って種を採っていますがその種の中には



ある油を効率的に搾油するための機械を鈴木鉄工所、鈴木京一社長が作って下さっています。レダから送ってきたジャトロファの種を使って、改良を重ねており、近々パラグアイに行き、現地で搾油をしたいと熱意を持っています。

二月十日、パラグアイから日本を訪れているパラグアイ初代環境大臣夫妻に帝国ホテルにて会いました。アスンシヨンの佐野事務局長が自然保護区の事で会い、今後、パラグアイにおいて植林活動、インディヒナ問題をなすにあつて、色々、アドバイスを受けることが出来るのではないかと思います。

アスンシヨンでは佐野さんが先日、国連で行ったレダの内容を説明し、その内容をスペイン語に直して渡しました。その内容のパワーポイントを持ってスペインにその後、すぐ行かれスペインの政府関係者ならびにその関係者に南北米の説明をして下さった。

南北米の活動の報告を見て、この団体であれば信用が、出来るととても喜んでおられたと話をしておりました。



左から、中田夫人、ファセティ夫妻、柴沼、中田氏、西脇夫人

ピースライフセミナーの開催案内  
日程 五月四日、五日  
場所 川崎市民プラザ  
先回、一月十七・十八日、川崎市民プラザで行われたセミナーは大変、好評で、参加した多くの方が是非、次回は友人、知人に紹介したいとの事でした。

参加人数が会場の関係で五十名ですので参加希望者は早めに事務局に申し込みください。



新年会で講話する桜井副会長

### 南北米福地開発協会 二月度の予定

#### 環境セミナー

三月二十二日 大山ふるさと会館

午後二時より

（費用 二千円資料代含む）

### 南北米福地開発協会 事務局

〒二二一三〇〇〇一

神奈川県川崎市高津区

溝口二二一五

岩崎ビル四F

電話

〇四四一八二九一二八二

Fax

八二九一二八二〇

会費納入

郵便口座

一〇一八

〇一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦

E-MAIL

office@asd-nsa.jp

ホームページ

http://www.asd-nsa.jp